

世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の特徴

独自の生物進化による希少な固有種

- 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、世界的に貴重な固有種や絶滅危惧種が数多く生息・生育しており、生物多様性の保全上重要な地域となっている。
- 1,819種の維管束植物(日本全体の26%)、21種の陸生哺乳類(同19%)、394種の鳥類(同62%)、267種の陸水性魚類(同68%)、36種の陸生爬虫類(同50%)、21種の両生類(同28%)が生息・生育しており、日本全体の動植物種数に対して大きな割合を占めている。
- 日本の脊椎動物の絶滅危惧種の36%が生息している。

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の景観



ヒカゲヘゴ(奄美大島)



オキナワウラジロガシ(徳之島)



国有林の景観(沖縄島北部)



大富展望所からの眺望(西表島)

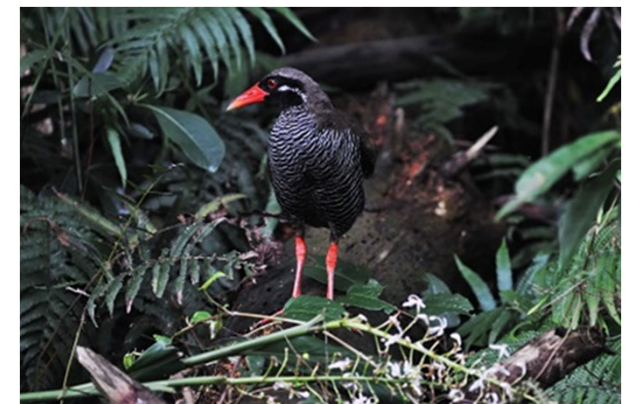
奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島固有の生物



アマミノクロウサギ



イリオモテヤマネコ

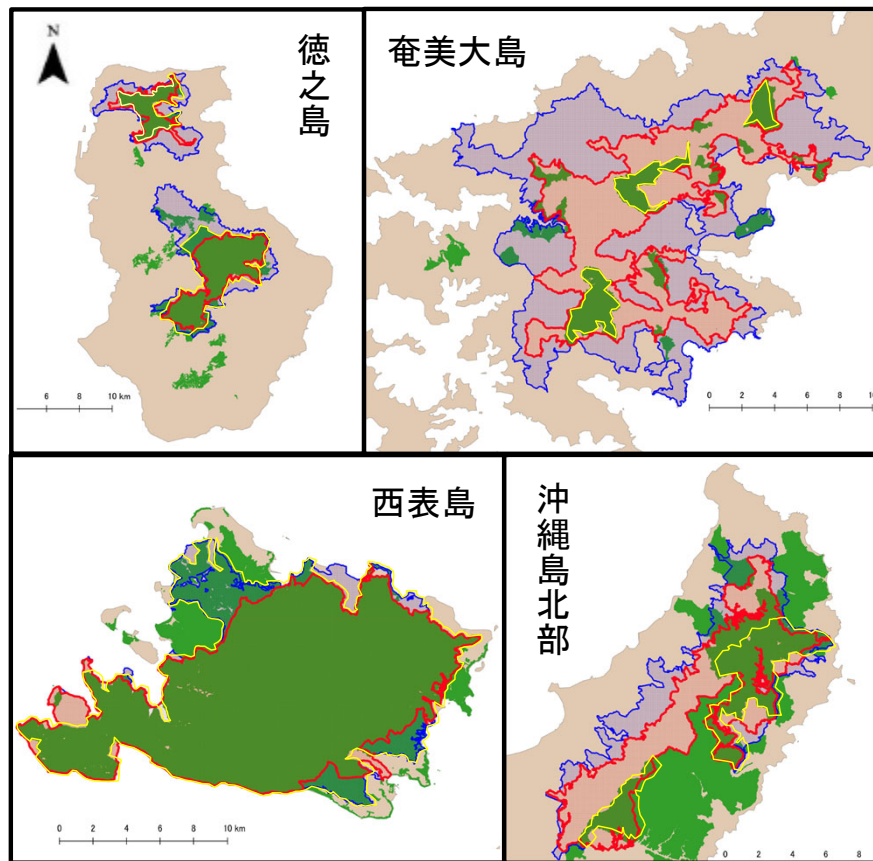


ヤンバルクイナ

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」における林野庁の取組

- 奄美大島及び徳之島については、2013(H25)年3月に「奄美群島森林生態系保護地域」を、沖縄島北部については、2017(H29)年12月に「やんばる森林生態系保護地域」を、西表島については、1991(H3)年3月に「西表島森林生態系保護地域」を設定。
- 「森林生態系保護地域保全管理計画」に基づき、希少な野生生物保護のための取組、希少な樹木、植物のモニタリング調査、外来種対策等を実施している。

世界自然遺産地域と国有林野 (森林生態系保護地域)



遺産地域面積：42,698ha

遺産地域における
国有林野面積：28,891ha

- 凡 例
- 遺産地域
 - 緩衝地帯
 - 国有林野
 - 森林生態系保護地域

希少な野生生物の保護

- ・ 国有林に入る林道の通行を、教育や研究目的、ガイド付きのツアーでの入林に限定。保護と利用の調整への取組。



エコツアーガイド連絡協議会が行う
ガイド付きツアー(徳之島)
(写真提供：NPO法人徳之島虹の会)

希少野生生物のモニタリング

- ・ 生育状況や生育環境のモニタリング調査を継続して実施。



仲間川のマングローブ林
(西表島)



ニッパヤシ(西表島)
国の天然記念物に指定

外来種対策



ギンネムの除去(西表島)